

坪院長の健康講座

血尿をきたしうる泌尿器科疾患について

院長 坪 俊 輔



今回は「血尿をきたしうる泌尿器科疾患」についてお話しします。言うまでもなく、血尿は泌尿器科疾患を推測する上で重要な所見であり、症状でもあります。血尿は、検診等で無症状で「尿潜血反応」として指摘される「顕微鏡的血尿」と、目で見えてわかる「肉眼的血尿」に分かれます。「顕微鏡的血尿」については、次のように検査を進めて行きます。

まず、顕微鏡で実際に尿を調べて純粋な血尿なのか、尿路感染がないか、異型細胞がないか、また定性的

に蛋白尿がないかなどを調べます。次いで超音波エコーやCTスキャンでスクリーニングを行い、尿路系に異常がないかを調べます。他に尿中悪性細胞の有無をみる尿細胞診や、中高年の男性ならば前立腺癌のマーカー（PSA）を調べます。なお、蛋白尿を伴う時には腎炎の可能性を考えて採血検査を行います。

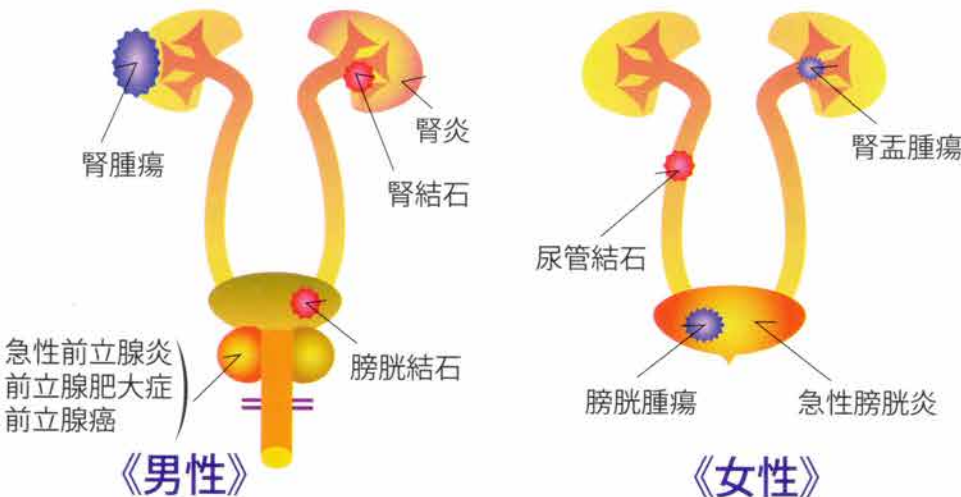
これらの検査結果を総合的に検討した上で、さらに膀胱鏡検査を行う場合もあります。顕微鏡的血尿の精査の結果、何らかの疾患が指摘される確率は、約3%位と言われていますが、全く無症状で早期に発見される腎腫瘍などもあり、「尿潜血」を指摘された場合には念のため、一度専門医を受診するのが良いと考えます。

肉眼的血尿でも尿の顕微鏡検査が重要なのは同じです。さらに排尿初期の血尿か、排尿終末時の血尿かなどから出血部位を推測し、また尿勢の変化、頻尿・排尿痛等の膀胱刺激症状、発熱や腹痛の有無などの随伴症状から、推測される疾患で頻度の高い順に焦点を合わせ、ダイレクトに検査や治療を進めて行きます。

なお、痛みや膀胱刺激症状のない「無症候性肉眼的血尿」では、尿路

悪性腫瘍が原因となっている事も多く、肉眼的血尿を自覚した時には、早めの専門医受診を強くお勧めします。

以上



血尿をきたしうる

泌尿器科疾患

●事務部●合田 聡



一見若く見えるが、2人の子を持つお父さん。大学卒業後、約20年金融マンとしてキャリアを積んだが、思うことがあり退職、縁があつて当院に再就職した。少年時代から野球に打ち込

み伊達高2年の時は全道大会に出場、強豪旭川龍谷に完全試合を喫し、最終27人目の打者となり注目?を浴びた。基本的なミスを無くし、迷惑をかけないよう頑張りたいと張り切っている。

●病棟看護師●岡本 志帆



札幌市内の総合病院から、当院の一員になった。小児科で5年、泌尿器科2年のキャリアで、即戦力の期待がかかる。大学から札幌に移り住んだものの、生まれも育ちも伊達、故郷で働け

ることがなによりうれしい。そんな岡本看護師の抱負は、総合病院で培った経験を、愛着ある地元で生かし切ること。さらに地域に密着した医療現場で勉強を積み、自分を磨くことと笑顔が眩しい大型新人。

新人さん紹介



今春札幌市内の専門学校を卒業し、当院に就職した。小樽市の出身、伊達では人生初の自炊を経験中で、慣れないながらも何とか

やっているそうだ。社会人一年生として責任を果たせるよう努力し、医療従事者としては疑問を残さず、解決していくよう心掛けるーと決意する。趣味はスポーツ観戦、「物静かな性格です」と自己評価し、「伊達の皆様よろしくお願います」と力強くあいさつした。

●臨床工学技士●松田 紘行

内気な性格という永瀬さんは看護師になることが夢だったものの、血を見るのが大の苦手です。断念、医療事務に方向転換し札幌

専門学校に進学、資格を取得した。卒業後札幌市内に就職したが、地元に戻り働きたい思いが強く、今年2月当院に再就職した。現在は空蘭の実家から通う毎日。窓口業務は大変な仕事、臨機応変に対応できるようにしたいと笑顔で頑張っている。

●事務部●永瀬 絵里



No. 25

アートマネージメント

○：アートマネージメントという考え方があります。何年前かで、次代の花形になるであろう学問とみなされ、少子化の影響から、このコースを新設するのが有名大学の生き残り策とまでいわれました。が、最近あまりこの話を聞かなくなりました。いったい何故でしょうか？

○：経済観念のないアート（芸術）に経済の物差しを当て、収支のバランスを図り、芸術を経済効果のあるパーツとして社会に組み込むというのが基本の考えで、これを実践する人材の育成が、この学問の目的であつたと思います。

○：いうまでもなく、芸術は特別な人たちに支えられ今日につながっています。パトロネージに代表されるように、富裕層の支援により、継承されてきた長い歴史と現実があります。それは芸術そのものに、経済的価値観では計り切れない神聖なものがあり、それを守り継承することが、指導者の大きな役目であつたからです。

という言葉を初めて聞いたとき、「なるほど」と感心しましたが、良く考えてみると「これは神の領域では」と大きな疑問も感じました。芸術には対価を求めたいいけない、というようなことがあり、そもそも経済的観念で考えては、根本的価値が失われてしまつのでは……？

○：芸術により受ける得体的にれない感情が感動で、人間にとつて極めて純粋な感覚といえます。これをお金で売り買ひするような考えや手段がいかなものか、答えは明らかです。「芸術は金にならない」という先人からの言い伝えは、間違つてはなく、それは経済効果のない芸術を蔑む意味ではなく、むしろ真逆の意味が込められたものではないでしょうか。「人間の尊厳」といった基本的な価値観が、芸術にあるのです。

○：話を戻します。アートマネージメントという言葉がなくなつたのは、リーマンショックによる経済の停滞からです。最近読んだ本に、経済は周期的に盛衰を繰り返し、底を打つ頃に戦争が起きるとありました。恐ろしい話ですが、それには人口の抑制という問題も内在するとあります。この内容が本当かどうかは別として、これが経済の本性でしょう。これに芸術までも取り込まれるのは、絶対に許せません。



「フットワークの良い医療」の実現を

クリニクの「顔」となる窓口業務から診療予約、経理や施設管理、入退院の対応、職員の福利厚生まで幅広い業務内容を的確にこなすことが要求されています。男女比率は女子が8名、男子3名という女性上位を形成、現場は橋本次長を中心により高いサービスの提供を第一目標に、美

より高いサービスの提供を

坪院長が掲げる理念である「フットワークの良い医療」を実現するため、縁の下の力持ちに徹し日々の業務に臨む事務部は、横井事務長をトップに、男女11名のスタッフが担当しています。クリニックの潤滑な運営のため、低燃費でパワフルなけん引力を発揮することを心がけ、理念の達成を目指します。



患者様にストレスを与えないための努力

現在、一日平均の外来患

人ぞろい(多分)のスタッフが一致団結し、患者様の満足度アップのため、笑顔を絶やさずことなく頑張っております。

開院以来の懸案となっていた待ち時間の短縮は、2年前に導入した「電子カルテ」により、劇的に改善されましたが、これに満足することなく患者様のご負担を、さらに軽減させることを模索し続け、さらなる改善を図っていく所存です。また、お気づきの点がございましたら、なんなりとスタッフ

者様は約150名で、予約制の診療により、受診後の会計までスムーズに進行するように努力しております。さらに、施設環境面でもストレスを緩和させるような配慮に心がけ、常に問題意識を持って、細やかなサービスに努めます。

我々は、患者様と医療スタッフ双方の敏腕マネージャーのごとく、ことには患者様に不便を感じさせることなくアテンドできる「究極の接遇」を実現させることを、最大の目標としています。

事務部は一般企業に例えれば営業部に当たり、ある意味地味ではありますが、重要なポジションであります。患者様と当クリニックでの実際の医療をつなぐ窓口でもあり、皆様の不安を最初に受け止める場所でもあります。クリニック内にあつては、先生方をはじめ医療スタッフが治療に専念、集中できることを第一に考え、様々な院内環境を万全に保つことに細心の注意を払っています。

職場紹介

頑張ってます

第8回 事務部編

不便を感じさせない接遇の実現

まで申し付けてください。当初の理念に基づき、皆様の貴重なご意見も積極的に反映させていきます。

当院の顧問弁護士が、悩みの相談に応じます。

悩みを引きずらず、思い切って相談してみましよう!

借金・債務整理

相続・遺言

■相談無料■

交通事故

離婚問題

etc.

担当弁護士 上田 勝啓 (札幌弁護士会所属)

●ご希望の方はお気軽に当院の横井事務長までご一報ください。

☎0142-21-1400(代)

悩みは万病の元
その悩みひとまず
弁護士へ
無料法律相談
※秘密厳守

男児の親を対象に講座

室蘭・思春期活動推進会が主催
仲山明宏副院長が講師を務める



室蘭の中小企業センターで

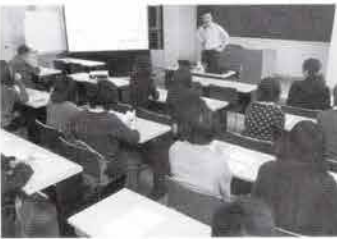
当クリニックの仲山明宏副院長が3月2日、室蘭市東町の中小企業センターで開かれた「性の健康講座」(室蘭・思春期活動推進会主催)で講師を務めました。新生児から思春期までの男児を持つ保護者を対象に、「男の子のからだ」をテーマに講演しました。この

様子は室蘭民報Ⅱ写真(左)でも取り上げられ、大きく報道されました。

母親ら30人が熱心に受講

この日は母親を中心に約30人が聴講

体の成長正しく理解を



男児の親対象に性講座 室蘭

成長期の男児がからだのすみずみまで健康になるには、理解を深め、性の健康講座... (transcription of the small text in the image)

し、仲山副院長の講義を熱心に受講していただきました。同副院長は間違った情報に惑わされがちな母親らに、具体的な例をあげ分かりやすく話し、不安を取り除くとともに、併せて受

診が必要な症状も説明し、参加者に正しい知識の重要性を訴えました。
男の子の心理についても触れる
夜尿症については大半が2、3年で完治するデータを示し「水分はゆつくり取らせる」「身体を冷やさない工夫」から、な

により規則正しい生活習慣が大切であることを強調しました。後半では思春期の男の子の心理についても触れ、中々相談できる機会が得られないお母さんらの関心を呼んでいます。
当院はこのような取り組みへも、積極的に協力します。

食事に関するご意見についての回答

雪溶けも進み、ようやく春らしい暖かい日が続くようになりました。体調はいかがでしょうか。さて、今回は外来透析患者さまからのご意見に関してお答えします。献立が毎月同じ内容との事。実際は8週サイクル(約2ヶ月)を基本とし、季節に応じて食材の入れ替えを図っています。
機会がありましたら、食事指導を受けられてはどうかと思えます。これにより、食事に対する考えが変わるかもしれません。栄養科といたしましては、皆様の健康を第一に、良質な食材と手作りにこだわり、喜んでいただける食事の提供を心掛けて参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。(管理栄養士)

当クリニックでは入院患者さま、夜間透析の患者さまにも、食事を提供しております。特に透析患者さまの食事につきましては制限(カリウム、水分等)があり、使用する食材によっては、見た目にボリュームのない献立ができません。何度と

院内看護研究発表会を開催

2月23日、だて歴史の杜カルチャーセンターにて、恒例の院内看護研究発表会Ⅱ写真Ⅱを開きました。

雪の降る寒い日曜日でしたが看護師30名が出席し、発表は活発なディスカッションも行われ、日頃の看護を振り返り、情報交換する実り多い発表会となりました。